

東日本大震災とハイチ大地震の被災地で生きる子どもたちが「将来の夢」をテーマに描いた絵を展示する「みらいはゆめいろりレー展」が9日、灘区青谷町2のギャラリー・夢創館で始まった。医師や看護師、自動車整備士など、約80枚の画用紙がクレヨンと色鉛筆で彩られている。

神戸市の非政府組織（NGO）「フューチャーコード」が主催。2010年に大地震があったハイチの医療支援に取り

宮城やハイチの被災児童ら描く

「将来の夢」80枚

灘区のギャラリーで展示



被災地の子が画用紙いっぱい
に描いた「夢」が並ぶ＝灘区
青谷町2

組んでおり、今年3月に現地の孤児院で4〜23歳の約90人に絵を描いてももらった。メンバーの一部は昨年の東日本大震災で、も宮城県南三陸町に医療支援に入り、知り合った小学校教師から絵が寄せられた。赤が鮮やかな車や、宇宙

飛行士の乗るロケットなど、自由な色彩が目を引く。同NGO事務局長の森田佳奈子さん（32）は

「生死に直面したためか、医師や看護師の絵が多い。復興した神戸から、次代を担う子どもの強さを伝えたい」と話す。

無料。14日まで、午後1〜6時。17〜24日は、芦屋市打出小槌町のギャラリー・安並でも開く。森田さん ☎080・4326・2848

（岩崎昂志）